



## SAMURAI SPEED NEWS RELEASE

2020年7月15日

### SAMURAI SPEED 2020年第98回パイクスピークインターナショナルヒルクライムへの参戦見送りを決定

#### ～代替国際ヒルクライムイベントへの参加を検討、2021年大会への参戦へ向けて活動は継続～

エクストリームパワースポーツチーム・SAMURAI SPEED（所在地：東京都港区）は2020年8月24（月）～30日（日）※<sup>1</sup>に開催される第98回パイクスピークインターナショナルヒルクライム（以下、PPIHC）※<sup>2</sup>への参戦見送りを決定いたしました。

電気自動車の魅力の発信とパートナーシップ企業が進める最新技術の共同開発を目的としてパイクスピーク EV チャレンジと銘打ち、2018年から活動してまいりました。本年は参戦車両のコンペティション能力の改善を図るため、改造無制限クラスであるアンリミテッドクラスへの参戦となり、セルロースナノファイバー採用による徹底した軽量化と環境性能を両立させたボディカウルの開発、駆動用リチウムイオンバッテリーの最新水冷式温度管理システムの搭載など、パートナーシップ企業の最新技術を取り入れ、より好成績獲得を目標に活動を進めてまいりました。

しかし、新型コロナウイルス感染者が増加する北米への遠征は、ドライバー、パートナーシップ企業各社、スタッフを含む関係者の健康安全を確保することが非常に困難であると判断し、チームとして本年のPPIHCへの参戦を見送ることいたしました。

今後、本年度内に開催される国際ヒルクライムイベントへの参加を検討するとともに、本決断で生まれた時間を車両開発に有効活用し、2021年6月開催予定の第99回PPIHCへの準備を進めてまいります。

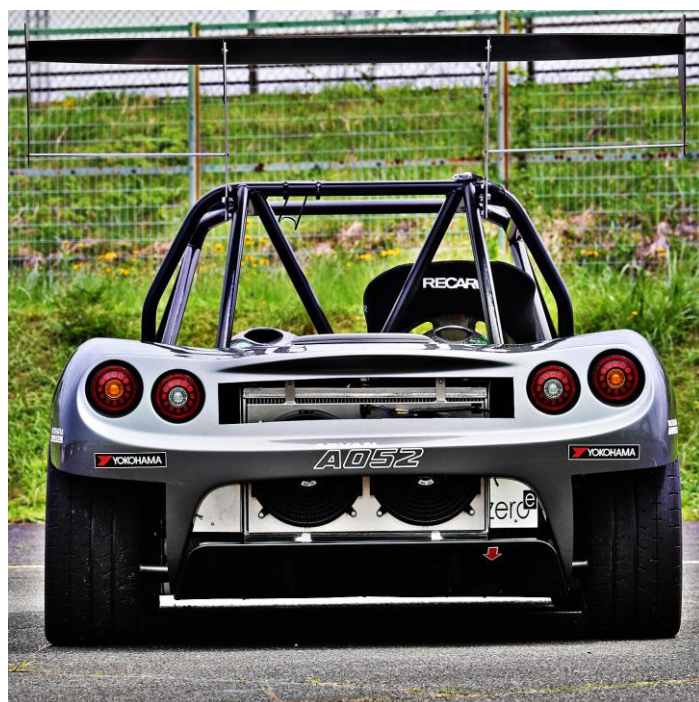
そして、パイクスピーク EV チャレンジの最終目標である2022年第100回記念大会での総合優勝を目指し活動を継続してまいります。

ファンや関係者の皆様におかれましてはご理解をいただき、引き続きのご声援を賜りますようお願いいたします。

#### パイクスピーク EV チャレンジ 2020 参戦体制

参 戦 チ ー ム 名	230 SAMURAI SPEED（フミオサムライスピード）
ド ラ イ バ ー	奴田原 文雄※ <sup>3</sup>
参 戦 車 両	GLM TOMMY KAIRA ZZ
参 戦 ク ラ ス	アンリミテッド（改造無制限クラス）
企 画 ・ 運 営	株式会社ゼロイースクエア／株式会社ゼロイワークス
パートナーシップ企業	大王製紙株式会社・サンデンホールディングス株式会社・株式会社リコー・横浜ゴム株式会社
車 両 技 術 提 供 企 業	GLM 株式会社・エイティーエス株式会社・エムケーカシヤマ株式会社・日信工業株式会社 産総研コンソーシアム Clayteam・東北化工株式会社
サ ポ ー タ ー 企 業	ベルエナジー株式会社・FreeWire Technologies・株式会社ワイエフシー・レカロ株式会社 SPK 株式会社
公 式 W e b	<a href="https://samuraispeed.jp">https://samuraispeed.jp</a>





参戦車両：GLM TOMMY KAIRA ZZ（2020 パイクスピーク EV チャレンジ用スペシャルマシン）

#### ◇ドライバー 奴田原文雄コメント

電気自動車での参戦は 2012 年を含めると 4 回目となる今年は、昨年と比較して格段に戦闘力の高いマシンでの参戦となるためドライバーとして好成績を期待していました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない状況下では、「感染しない・させない」を最優先に考え、チームがこの状況下で渡米することは健康安全上非常にリスクが高いと判断し参戦の見送りを決断したことに賛同しました。多くのパートナーシップ企業の皆様、関係スタッフ達のご尽力に感謝するとともに、より好成績を掴み取るための準備期間ができたとポジティブに捉えて開発活動に力を注いでいこうと考えています。ファンの皆様にも引き続きの私たちの活動を見守っていただき、いっそうのご声援をお願いいたします。

※1：新型コロナウイルス感染拡大のため、本年 6 月開催から 8 月開催へ延期。

※2：パイクスピークインターナショナルヒルクライム (<https://www.ppihc.com/>)

アメリカ・コロラド州のロッキー山脈にあるパイクスピークマウンテン（標高 4,301m）の頂上まで標高差約 1,500m、全長約 20km のワインディングロードを一気に駆け上がるタイムアタック競技。初開催は 1916 年。2020 年で開催 98 回を迎え、インディ 500 に次いで米国で 2 番目に歴史のあるレースとして知られる。別名「雲に向かうレース」と呼ばれ、標高 3,000m 以上のワインディングロードは天候が目まぐるしく変化し、低酸素、低気圧から来る高山病に悩まされるドライバーもいるなど、他に類を見ない過酷な環境で開催される唯一無二のモータースポーツである。

※3：奴田原 文雄 ヌタハラ フミオ (<http://www.nutahara.com>)

北海道在住、56 歳。全日本ラリー選手権において過去 9 回の年間チャンピオンを獲得する日本を代表するプロラリードライバー。2006 年にはアジア人で初めてモンテカルロラリーで優勝を飾り、同年のプロダクションカー世界ラリー選手権で年間 2 位となる。2012 年のパイクスピークインターナショナルヒルクライムでは EV クラスに出場し、初出場初優勝という快挙を成し遂げる。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 ZERO e SQUARE [info@zeroesquare.jp](mailto:info@zeroesquare.jp)